

コンベンション

フランスのアニメ・漫画イベント情報 2009年版

日仏交流社

2009年8月16日発行

はじめに

昨年、このコミックマーケットにて、フランスの代表的な日本のアニメ・漫画イベントである“EPITANIME”と“JAPAN EXPO”を、簡単にではありますが紹介する同人誌を発行致しました。

この一年でいくらか状況が変わったところと、“JAPAN EXPO”が今年で10周年を迎える記念の年となりましたので、少しフランス人の視点でどのような催し物であったかを述べてみたいと思い、今回は昨年の同人誌の2009年最新改訂版とさせていただきます。

お蔭様フランスの“JAPAN EXPO”は、日本でも注目度の高い海外イベントの一つであると聞き及んでおります。しかしながら、フランスには“JAPAN EXPO”の他にも開催されているイベントがあります。百聞は一見にしかず、実際にそれらにも直接参加して頂き、現地の日本ファンである人達と将来交流を持っていただけましたら、望外の幸せに存じます。

サークル：「日仏交流社」 Stephane Lapie
2009年8月16日発行

< 項目 >

- EPITANIME 「エピタニメ」
- 概要
- 「エピタニメ」とは？
- 「エピタニメ」の歴史について
- 参加について
- 参加時の注意点

- JAPAN EXPO 「ジャパンエキスポ」
- 概要
- 「ジャパンエキスポ」とは？
- 「ジャパンエキスポ」の歴史について
- 参加について
- 参加時の注意点
- “JAPAN EXPO 10th” 現地報告
- Wikipedia にある “JAPAN EXPO” の記述につて

EPITANIME (エピタニメ)

《概要》

名称: EPITANIME 「エピタニメ」

主催団体: EPITANIME

EPITA (Ecole Pour l'Informatique et les Techniques Avancées \ 高次技術と IT 技術の高等専門学校) のアニメ部

住所: EPITA - Association EPITANIME
14-16, Rue Voltaire
94200 Kremlin-Bicetre
FRANCE

代表者: 在校生の中から毎年の代表者が選出されるため、その年によって代表者が代わります。

開催地: EPITA キャンパス内"EPITANIME"特設会場

住所: EPITA - Association EPITANIME
14-16, Rue Voltaire
94200 Kremlin-Bicetre
FRANCE

開催日程: 年の5月下旬～6月上旬に3日間完徹にて開催。
「昼の部」
「夜の部」
の2部構成

アクセス: 地下鉄メトロ7号線の"PORTE D'ITALIE"駅より徒歩約5分
※同じメトロ7号線には"PLACE D'ITALIE"という駅があり、
駅名が似ていて紛らわしいので要注意の事

「エピタニメ」とは？

“EPITANIME”は現在開催されているフランスのイベントの中でも最古級の、草分け的イベントです。

専門学校である EPITA (Ecole Pour l'Informatique et les Techniques Avancées \ 高次技術と IT 技術の高等専門学校) のアニメ部が毎年恒例に行うイベントで、自称「ファンによるファンのためのイベント」でもあります。そのため、日本の最新情報に敏感であるコアな層の参加も多く、フランス国内でも注目度の高いイベントとして認知されております。

フランスの大学試験期との兼ね合いがあるため、長年の決まりとして、5月下旬～6月上旬に開催されますが、~~毎年~~、数千人もの一般来場者数があります。

“EPITANIME”は学園祭のノリで手作り感もあり、会場は EPITA の学園キャンパスを使用するなど他のフランス国内の大型イベント、例えば“JAPAN EXPO”などと比べても比較的規模の小さいイベントではありますが、多くのリピーターや熱心なファンの支持を受け長く続けております。2008年は7000人以上8000人近い来場者がありました。勿論、フランスの “fanzine” 「ファンジヌ」 (同人誌サークル) や、フランスの日本のアニメや漫画の出版社、それらを扱っているショップ等の企業もブースで出展参加しており、近年では日本からの出展企業も増えて参りました。

開催に必要なスタッフの人数は100を越えます。主に学生が代表者を含め運営の各担当と責任者を選出しているため、~~毎年~~スタッフも代わりますが、卒業生の中には~~毎年~~の様に戻って来る者もおります。

また、フランス国内のイベントとしては早くから海賊版対策に取組み、出展するショップなどの企業に対し、海賊版取締りのために警察の査察がある旨を事前にアナウンスして暗に海賊版取扱い業者の締出しを図ったり、日本からのゲストのサイン会の時は海賊版を持って来た人にはサインが出来ない旨を伝えて消費者サイドからの啓発活動をするなど、ボトムアップ型の海賊版対策は注目に値すると思われれます。

＊“EPITANIME”はその学校のアニメ部の名前でもあり、そのアニメ部はフランスで法人登録されておりますので、イベント“EPITANIME”開催時以外にも活動しております。

「エピタニメ」の歴史について

1994年からエピタニメは毎開催が行われています。
回を重ねるにエピタニメはその勢いと規模を増していき、さまざまな催し物がイベントに加わってきました。

1999年から始まった現在でもエピタニメの中でも定評と人気のあるアニソン・カラオケ活動は、メンバーが独自に開発した専用ソフトウェアによるものです。優れたIT技術者を多く輩出する事を教育を主にしていた学校のおかげで、そのような才能は手元にあったわけです。

2000年までのイベントの名称は、ただ「Convention de l'EPITA」（エピタ大学のコンベンション）でしたが、フランス国内でのイベント開催に長けていたJADEという団体と組んで、初めて「JAPAN EXPO「ジャパンエキスポ」\EPITANIME 2000「エピタニメ2000年」」を開催しました。
その後、JADEはエピタニメと分かれて、「ジャパンエキスポ」という商標を登録し独立致しました。従って、エピタニメは商標権争いを未然に防ぐため、また学校であるEPITA「エピタ」に所属しているが故に、イベント名である「EPITANIME」は、団体名である「EPITANIME」と同名となりました。

2001年、初めてエピタのコンベンションが正式に「エピタニメ」となりました。

2003年、従来のアニソン・カラオケを上回る新生アニソン・カラオケ・ソフトウェアが開発され、現在でも使用されております。

2007年からは日本からのゲストを招き、サイン会やトークショー等を催してフランスのファンとの交流を図っております。
また、この頃から日本の企業の出展も増え一般来場者数も回を追う毎に右肩上がりが増えてきました。

2008年にゲストとして村田蓮爾先生を向かえ、来場者は過去最高を記録しました。

2009年は、予算的な問題などから日本からのゲスト招聘が出来ませんでした。

参加について

○一般来場参加（コスプレ参加を含む）には、特別な条件は特にありません。入場券を購入して入場して下さい。但し、3日間完徹開催のため、参加期間によって入場券の値段も変わってきます。

○サークル参加、並びに企業出展を検討していらっしゃる方は、会場スペースが限られているため参加出来るサークルや企業も、その数や出展面積が限られています。早めの申込みをお勧め致します。

（申込みは日本語での対応が可能なので、convention@epita-convention.comにメールを送ってみて下さい）

○自費出版の同人誌による出展ではなく、市販の商品や自社製品の販売が主でしたら、「サークル」ではなく「企業」としての申込みをお願い致します

申し込みに必要な情報は：

- 参加人数（必須です）
- 催し物\販売する商品の説明（内容は検査される場合があります）
- 必要なスペース（会場の制約上、ご希望に副えない場合があります）

公式サイト：www.epitanime.net

メール：convention@epita-convention.com

会場の住所\エピタニメの住所：

EPITA - Association EPITANIME

14-16, Rue Voltaire

94200 Kremlin-Bicetre

FRANCE

《参加時の注意点》

※ サークルや企業参加者は、参加者自身は勿論のこと、商品やディスプレイ等も全てフランスの法律に従わなければなりません。

※ 海賊版商品等、他人の権利を侵害する商品の販売はかたく禁じられています。

※ いわゆる「18禁」の成人向け商品等を、そのまま幼い子供の目の届くところに置くことは禁じられています

※ 俗に言う「ロリ」等、児童等の未成年者による性行為等を描写している作品も、フランスの法律によって禁じられています。

※ 出展ブース内に「インターネットアクセス」や電源の提供も可能ですので、事前に御相談下さい。

※ ホテルや飲食料代等はすべて自費になります。

※ 会場内と現場に関する対応はスタッフが致しますが、会場までのツアーやホテルの手配、会場までの送迎、会場以外での会場までの案内等はありません。

※ 企業やサークルの方は独自に通訳者の用意をお願い申し上げます。

※ 会場内の撮影はプライベートな場所を除き、基本的には許可されていますが、取材や商業目的の撮影等は事前に連絡をお願い申し上げます。

※ 残念ながら、フランスは日本より治安面で問題があると言わざるを得ません。会場内でもスリやひったくり、万引きや詐欺まがいの犯罪の危険性は皆無ではありません。イベントへの参加は、単独で行くよりも複数で参加される事をお勧め致します。

JAPAN EXPO (ジャパンエキスポ)

《概要》

名称: JAPAN EXPO「ジャパン・エキスポ」(7月開催)

主催団体 :S.E.F.A.

Societe d'Exploitation des Festivals Asiatiques

(直訳は「アジアの催し物を開発する協会」になります)

住所: 6 rue du Marechal Massena

77340 Pontault-Combault

FRANCE

代表者: Jean-Francois DUFOUR (会長)

Thomas SIRDEY (副会長)

開催地: PARC D'EXPOSITIONS PARIS-NORD VILLEPINTE

住所: BP60004 95970 Roissy Charles de Gaulle Cedex France

開催日程: JAPAN EXPO:

2008年開催から、毎年7月の第一週目の木曜日～日曜日の4日間開催

(他に、10月下旬～11月上旬開催の“Chibi - JAPAN EXPO”(3日間開催)と、2月には南フランス地方マルセイユにて開催の“JAPAN EXPO - SUD”(3日間開催)があります)

アクセス: R.E.R.のB線(“Ch. de Gaulle”方面のB3号線)の“Paris-Nord VILLEPINTE”駅(“CDG 1 Terminal 1”駅の一つ手前の駅)から徒歩約1分

※R.E.R.のB線には所謂「急行」と「普通」に相当する列車があります。

「ジャパンエキスポ」とは？

今やフランスは勿論の事、全ヨーロッパでも最大級の「日本文化総合紹介」のイベントです。

会場内には日本の囲碁や武道、着物の着付けや時節柄の「七夕飾り」もありますが、やはり会場内で多くの面積を持つのは日本のアニメや漫画、ゲームなどといったサブカルチャーですし、フランスのアマチュアによる“fanzine”「ファンジヌ」（同人誌サークル）もあります。

ただ、日本のコミックマーケットに代表されるような所謂「同人誌即売会」のようなイベントとは異なり、どちらかといえば「東京ゲームショー」や「東京国際アニメフェア」、「（アマチュア・ディーラーの少ない）ワンダーフェスティバル」のような印象を受けます。

それは広い面積と派手なディスプレイで人目を惹きつける日本のアニメや漫画を出版している会社のブースやゲーム会社のブースがどうしても目立っているからですし、それらを扱っているショップのブースが数多く出展しているためだと思います。

日本と比べて、現地の同人誌サークルはどうしても絵の描き方や印刷技術などの面で発展途上の印象は拭えないと思います。しかし、回を追う毎に参加する現地フランスの同人誌サークルが増えているのも事実です。

イベントの中での催し物では、日本からの招待ゲストによるサイン会やトークショー等が目玉ではないかと思えます。近年ではゲストとその関係者だけで100人を超える規模で参加します。

他の催し物としては、カラオケ大会やコスプレ大会、ヴィジュアル系ロックバンドや歌手のコンサート、ファッション・ショーやプロレスの試合などなど、イベント自体が巨大であるだけに枚挙に遑がありません。

そのためか、“JAPAN EXPO”は毎年会場面積を拡大して行き、開催日程も4日間開催となって行きました。

また、2008年の開催から、会場を4つのカテゴリーにて構成し、運営しています。

Japan Expo: 日本のエンターテイメント・フェスティバル

Azikult : (日本以外の) アジアン・カルチャー・フェスティバル

Kultima : SF やファンタジー系などのイマジネーション・フェスティバル

Kultigame : ゲーム・カルチャー・フェスティバル

「ジャパンエキスポ」の歴史について

- 2000年、IDP社の支援を得て、JADEがエピタニメとともに初めて「JAPAN EXPO」をパリの Espace Austerlitz にて開催しました。
“EPITANIME”の項でもご紹介したとおり、JADEはエピタニメと分かれて、「ジャパンエキスポ」という商標を登録して独立したところから、“JAPAN EXPO”の歴史が始まったと言っても良いと思います。
この時の来場者数は3200人ほどのものでした。
- 2001年は“La Defense”地区にある会場“CNIT”にて開催され、5千人以上の来客でした。
- 2005年はスタッフの採用に問題が発生したため、開催出来ませんでした。
- 2006年は会場を現在の“PARC D’EXPOSITIONS PARIS-NORD VILLEPINTE”へ移りました。また、開催の記者会見を在フランス日本大使館にて行い、日本のメディアの注目度が増したのもこの回からではないかと思えます。
主催団体が現在のS.E.F.A.になったのも、この回からです。
- 2007年は来場者数8万人を越えました。11月には初めて“Chibi-JAPAN EXPO”「チビジャパンエキスポ」を開催しました。
- 2008年は10万人の来場者数を期待しましたが、実際には13万人の来場者数があり、全ヨーロッパでも最大級のイベントとなりました。
当初、ゲストに日本の有名なヴィジュアル系ロックバンド“X-JAPAN”も予定され、コンサートの開催が話題になっていましたが、残念な事にYoshiki氏にドクター・ストップがかかり、コンサートは開催されませんでした。
- 2009年2月20日から3日間、初めて南フランスでの“Chibi-JAPAN EXPO SUD”「チビ・ジャパンエキスポ・スッド」（南のチビ・ジャパンエキスポ）第一回を開催しました。来年2010年からは“Chibi”の表記が無くなり、南フランスでの“JAPAN EXPO”となります。
- 2009年7月2日から4日間の開催日程で“JAPAN EXPO”開催10周年となる“JAPAN EXPO 10th”が開催され、15万人以上の来場者がありました。

参加について

現在、“JAPAN EXPO”を主催・運営する S.E.F.A. は、日本からの参加者・出展企業向けに S.E.F.A. が直接窓口業務を行っています。

尚、S.E.F.A. の日本関係担当窓口は日本語に対応していますので、興味のある方や出展・参加を検討していらっしゃる方は日本語で問い合わせをしてみてください。

日本語による所定の書類が送られてくると思います。

フランス語に心得のある人向けに、“JAPAN EXPO”の URL を以下に示しておきます。

現在は“JAPAN EXPO”の公式サイトにも、日本語ページが開設されております。

公式サイト: <http://www.japan-expo.com/>

連絡: <http://www.japan-expo.com/index.php?module=contact>

《参加時の注意点》

※ EPITANIME の項で記した内容と基本的には大差ないと思います。

但し、出展ブース内での「インターネットアクセス」は会場の制約を受けると思いますが、出展社の場合、電源の利用も可能ですが追加請求の対象になりますので、御希望の場合は主催 体である S.E.F.A. に御問合せ下さい。

※ 会場である“PARC D’EXPOSITIONS PARIS-NORD VILLEPINTE”はパリから離れたところにある会場です。夏場は日本よりも日没時間が遅く、閉会後も大分明るいのですが閉会時間が 19時と遅いので閉会まで会場にいる場合は早目に列車へ乗りこみ、翌日の予定に備えて早目に宿泊ホテルへ戻る事をお勧め致します。

※ また、“JAPAN EXPO”は“EPITANIME”よりも大きなイベントですので、それだけ犯罪の発生率も高くなると思います。来場者もフランスはもとより何国からも一般来場者が来ます。遠い異国の地で開催されているイベントに参加しに来ている事を自覚し、少しでも危険性を感じる人や物、場所などには近寄らないよう心掛けて下さい。

※ 特にサークル参加の場合は一人単独での参加は「なかなかトイレに行けない」、「喉が渇いても飲み物を買いにスペースを空けるわけにもいかず、出掛けにくい」など、いろいろと不自由すると思います。そして防犯面にも不安を残すと思いますので、出来るだけ複数人数での参加が望ましいと思います。

“JAPAN EXPO 10th” 現地報告

<「天元突破グレンラガン」フランスで歓迎される！>

GAINAXの赤井孝美プロデューサーによるトークショーは、来場者からとても高く評価されました。

フランスのファンたちは赤井孝美プロデューサーから直接「天元突破グレンラガン」の制作について、また日本の某匿名掲示板に端を発する日記炎上と、その後についても臆事ができ、「やっぱりこのイベントは本物だ」と実感する事ができました。

その際、「天元突破グレンラガン」はフランスにおいて今秋、独立系の日本のサブカルチャー紹介専門チャンネルである“**NoLifeTV**”で、フランス版タイトルは「**GURREN LAGANN**」として、放送が決定したとの発表がありました。

また、その「天元突破グレンラガン」のフランス語吹き替え版は、日本側スタッフからとても評価されました。（フランス語版のシモン役とヨウコ役は、特別ゲストとして“**JAPAN EXPO**”に参加していました）

フランスのファンからも、「今回の吹き替え版で、**BEEZ**（バンダイのフランス会社）は本当にグレンラガンの魂をうまく伝えましたね」とのコメントが寄せられました。

また、そのトークショーの際に、ネタバレを防ぐために通訳は必死に赤井孝美先生の、「カミナは死んだ」との発言をうまく防ぐ事に成功しました。観客の半分以上はそのネタについて既に詳しく知っていたようでしたが、シリーズはフランスではまだ発売したばかりでしたので、さすがに全てをバラすわけにはいきませんでした。

<ゲストの裏話し>

今回の“**JAPAN EXPO**”のメイン・ゲストの一組である〇〇さんは、現地で大変な「セレブ」ぶりを発揮しました。

他のゲストは“**JAPAN EXPO**”を通して大体150人～200人ほどにサインをしました。〇〇さんはその人気・知名度ではフランスでもトップクラスでサインを欲しがる人は大勢いましたが、それでも“**JAPAN EXPO**”を通してサイン会でサインをした人は80人で、サイン会を終え会場を出る車に乗るところで土下座してサインをねだったToulouseの人一人を加えて全合計81人だけにサインをしました。

また、〇〇さんのマネージャー氏は、自分たちの運転手に「道を間違えた」との理由と文句をつけて、同じゲストで参加していらっしゃいましたT先生に付けられていた運転手との交代を無理矢理SEFA側に要求しました。

また、マネージャー氏は、他に今回の“**JAPAN EXPO 10th”**のゲストとして参加していらっしゃいました諸先生方とも一線を画すように、〇〇さん専用V.I.P.ルームを要求したとも聞いております。マネージャー氏は他の“**JAPAN EXPO**”のスタッフたちからも、その横柄な態度から煙たがられていました。

<好評を博したゲーム会社の展示>

NINTENDOのブースにて公開された新しいソフトに、ファンたちはとても満足していました。注目された主なタイトル（フランスでのタイトル）は以下の通りです。

- 新作「Super Mario Bros」
- 「Golden Sun 3」
- 「Mario Galaxv 2」
- 「Metroid」
- 新作「Zelda」
- Tatsunoko VS Capcom
- Muramasa
- Sin&Punishment 2
- Resident Evil Darkside Chronicles
- Final Fantasy Crystal Chronicles the Crystal Bearers,
- Professeur Layton et la Boîte de Pandore
- Girls mode
- Mario & Luigi 3
- Kingdom Hearts DS
- Wii Sport Resort

SEGAも、「今までのゲーム機の歴史の博物館」を展示していました。アレはなかなか好評価で注目されました。

その他、今回は特に多くの日本企業も出店していました。それらの点も含めて、改めて今回の“JAPAN EXPO”の来場者たちから、「やっぱり本物だ」との感想がよせられました。

<行きも帰りも苦難の連続>

1日目の夜は、帰り際に大変な嵐に見舞われ、駅も会場も大洪水に遭ってしまいました。

その影響からか、企業出展していました「ONE SHOT MANGA」という、ある意味有名な(?)店のブースとそこに置かれた在庫は破壊されてしまいました(主に海賊商品でした)。イベント後、店は保険のためにクレームを付けようとしたのですが、主催者であるSEFAは無事にクレームを弾く事に成功しました。

3日目には、なんとフランスの名物である「必殺技!いきなりストライキ」が炸裂して、会場行きの列車(R.E.R.)は全て午前6時から10時まで、運行停止となってしまいました。原因は最初「電車の運転手が客に襲われたから」との事でしたが、後日その事実は無い事が判明、単にストライキをしたかっただけとの見方が有力です。なにしろ利用できる公共交通機関はこのR.E.R.(高速鉄道)だけだったので、企業さんも来場者も大変困ってしまい、最終的にSEFAも直接鉄道会社にクレームを付けて、なんとか危機を乗り越えました。

< 意外なモノにサイン・・・ >

谷口守泰 作画監督のサイン会に、かなり古い、アニメ歴史の闇にしか存在していなかったかのような OVA のポスターを持ち出して、谷口守泰 作画監督にサインを頼みに来た人がいました。(なんと、「THE RAPE MAN」のポスターでした)

< フランスでのファン活動 >

フランスの「SOS 団」(別名「haruhi.fr」)は、来年開催されます“Epitanime 2010”のゲストとして、いとうのいぢ先生を招聘するためにフランスのファンからの寄付を集めていました。(8/1 現在は、750 ユーロに達しています)

因みに彼等は、今年5月に来日して、いとうのいぢ先生へ“Epitanime 2010”のゲスト招請をしております。

< 同時開催のイベントについて >

今回、“JAPAN EXPO 10th”の開催日程に合わせ、日本の「国際交流基金」が運営するパリ日本文化会館にて、“Japan Pop Culture Festival in Paris”が開催されました。

日本からアニメの監督さんやプロデューサーさん、「カワイイ大使」さんやラフォーレ原宿のファッション・ブランド等が多数参加するというものでしたが、“JAPAN EXPO 10th”の参加者からすると、開催されているパリ日本文化会館までは移動だけでも R.E.R. とメトロ(地下鉄)を乗り継いで“JAPAN EXPO 10th”の会場から約1時間程も掛かる場所にあり、また“JAPAN EXPO 10th”でも催し物がある等の事から、非常に参加し辛いものでした。そのせいか、日本でも新作のアニメ映画上映会でも観客が30人程しかいなかったそうです。

ただ、内容的にはコマーシャル・ベースの“JAPAN EXPO”に比べ“Japan Pop Culture Festival”は、比較的「日本の文化の普及と促進」に重点を置いた感じで“JAPAN EXPO”の商業主義的な雰囲気嫌がる人には好感が持てる内容だったそうです。

「なぜ、“JAPAN EXPO 10th”の隣の会場にしなかったのだろうか？」との不満の声が、特にフランスの地方から参加してきた時間的に余裕の無い人達から聞かれました。

< ニコニコ動画で・・・ >

これらの他にまた、なんと、ニコニコ動画の組曲を大勢で歌うイベントまでありました。動画はニコニコ動画でもご覧になれます。

(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm7562481>)

< Wikipedia にある **"JAPAN EXPO"** の記述につて >

インターネット上のフリー百科事典 Wikipedia にある **"JAPAN EXPO"** の略歴について、下記の記述を見つけました。

< 「Japan Expo」 (略歴) : フリー百科事典 Wikipedia より >

2006年、韓国の漫画出版社がフランスの主催者が招聘したオフィシャルゲスト（日本の漫画家8人）の人数を上回る11人の韓国人漫画家を参加させた。またこのとき、「Japan Expo」の名称を「Asia Expo」もしくは「Korea Japan Expo」に変えるよう要求したがフランスの主催者により拒否された。更に勝手にブースで韓国国旗を掲げるも撤去された。「^[1]当然のことながら韓国コーナーは閑散としており韓国の漫画やアニメは世界的な人気を集めていない悲しく寂しい現実だけでなく日本の漫画とアニメを勝手に韓国オリジナルと主張し、日本が盗んだなどという虚言と捏造は世界で知れ渡っており相手にされていない事実が証明された。

この記述が気になり、現地にいる友人で**"JAPAN EXPO"**のスタッフをした事がある人に聞いてみたところ、

「**"ASIA EXPO"**については、フランスで韓国の漫画を出版している会社（フランス資本）と、中国大使館、韓国大使館等からの要求はあった」そうです。

詳しい経緯は分かりませんが、**"JAPAN EXPO"**を主催・運営している**S.E.F.A.**はその要求を断ったそうです。

ただ、**"KOREA JAPAN EXPO"**については「聞いた事が無い」との事で、その人曰くは、「恐らく、デマの可能性が大きいのではないか？」との事です。

「脚注」にある出典元の記事も当事者からのものではないため、記述の正確さが今の状態では疑われると思います。

生憎と現地フランスは、夏の**Vacances**シーズンに突入しており、**S.E.F.A.**

を始めスタッフ達に確認をとる事ができませんでしたので、こちらは次回以降のお話しのネタとして、調べておく事にしたいと思います。



エピタニメの会場内



ジャパン・エキスポで「ニコニコ動画 組曲」を歌っているフランス人達



「晴れはれユカイ」を会場内で踊っている haruhi.fr